

実践事例「県立宇部中央高等学校 －LHRを活用したKYT学習－」

県立宇部中央高等学校は、文部科学省委託事業である平成20年度交通安全教育推進事業（実践地域事業）推進校に指定され、生徒一人ひとりの高い安全意識の醸成に向け、学校教育全体を通じて交通安全教育を展開しています。

ここでは、ロングホームルームを活用した危険予測学習（KYT）の実践事例を紹介します。当校では、予め、教職員研修として指導教員を中心に本教材に取り組んでいます。

「交通安全LHR（KYT学習）の進め方」

（担任用）

順序	学習過程	内 容	時 間
導入	本時のねらいの説明	<ul style="list-style-type: none"> ・KYT学習の意味（自分で考えて危険を予測し回避する）を説明する ・活発なグループ討議で理解を深める 	5分程度
	班編制の発表（司会・記録の指名）	<ul style="list-style-type: none"> ・司会、記録の役割を説明する ・机を動かして班で固まる 	
	資料配付	<ul style="list-style-type: none"> ・カラー印刷の前景図（黒板に掲示） 次頁参照 ・個人用ワークシート、前景図（生徒各自へ） ・取りまとめ用ワークシート（記録の生徒へ） 	
1	場面の読み取り	<ul style="list-style-type: none"> ・各自で個人用ワークシートに書き込ませる ・頃合いを見てグループ内で発表しあう 	3分程度 7分程度
2	危険の予測	<ul style="list-style-type: none"> ・各自で個人用ワークシートに書き込ませる ・頃合いを見てグループ内で発表しあう 	3分程度 7分程度
3	危険の絞り込み	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で最も起こりやすくて重大な危険を決定する（1～3位の順位付けを行う） ・なぜ危険なのかについても意見を交換させる 	5分程度
4	危険回避の方法検討	<ul style="list-style-type: none"> ・1位になった危険を回避する方法をグループで話し合う 	5分程度
5	記録による発表	<ul style="list-style-type: none"> ・各班1～2分で発表する ・適宜、助言を加えたり、生徒の質問などを促す 	10分程度
まとめ	本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・事故発生時の俯瞰図を各班に配付する ・生徒の危険予測・危険回避方法が有効であったかを検証する ・今後の生活の中で実践できるように意識付ける 	5分

※ 各段階での詳しい留意事項は指導案を参考にしてください。

※ 基本的に生徒主体で討議させますが、スムーズな意見交換ができるように適宜、助言してください。

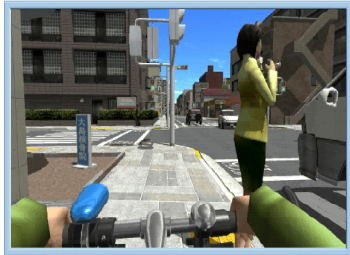
※ 指導展開は、日本交通安全教育普及協会が示す「5段階学習」に従っています。


※ 活用したKYT資料（前景図）は、日本交通安全教育普及協会「自転車利用における交通安全・危険予測シュミレーション」（平成16年度）による。

K Y T 学習（危険予測学習）

- 今あなたは自転車に乗って信号のある交差点を直進しようとしています。
前方の信号は青です。この後どのような危険が予想されますか？



題 材		自転車乗車時における、交通量の多い信号のある交差点を横断する際の危険		
題材設定の理由		交通量の多い交差点で交通事故にあうと、重大な被害を受ける可能性が高い。生徒の命を守るためにも本題材を設定した。		
指導のねらい		交通事故の多くが交差点内で発生している。交差点には様々な危険が潜んでいるが、信号のある交差点を横断する際、「信号があるから安全」「自動車は自分の存在に気付いている」と思いこみ、自動車に対する注意を怠ってしまう傾向がある。信号の表示のみを信じるのではなく、自分の目で安全確認をする必要があることを理解させる。		
事前の準備		<ul style="list-style-type: none"> ・交通場面の前景図（各生徒に1枚（白黒）、黒板に掲示用1枚（カラー）） ・事故場面の俯瞰図（各班に配付） ・班編制（一班5～6人） ・班の中での司会、記録の決定 		
		学習内容	学習活動	指導上の留意点
導 入	5 分	<p>○本時目的と内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料配付 ・資料の活用方法 ・学習活動の流れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習活動のねらいや方法を理解する。 ・自分自身が自転車に乗った立場で、交差点走行時の危険の予測や回避方法を学習することを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机を合わせて班を編成し着席させる。 ・司会と記録の役割を確認させる。 ・活発に意見を出し合うようにさせる。
展 開	40 分	<p>1 場面の読み取り 道路交差点の前景図を見て交通状況をできるだけ詳細に把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><予想される主な発言内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・信号待ちの女性がいる。 ・トラックが左折しようとしている。 ・交差点内の白い車が右折しようとしている。 ・接骨院の曲がり角の見通しが悪い。 ・自転車横断帯がある。 ・交通量の多そうな大きい交差点である。 </div> <p>2 危険の予測 (場面分析その1：顕在、潜在危険を予測する)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><予想される主な発言内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・信号待ちの女性が自転車の存在に気付いていないかもしれないので、接触する危険性がある。 ・接骨院の曲がり角が見通しが悪いので、左から来た歩行者や自転車と衝突する危険性がある。 ・トラックの運転手が自転車の存在に気付いていないかもしれないので、左折時に巻き込まれる危険性がある。 ・右折の自動車の運転手は早く曲がりたいため、自転車の存在に気付かず右折をし、横断歩道上ではねられる危険性がある。 </div>	<p>1 絵からどのような交通状況かを読み取って、<u>各自が個人用ワークシートに書き込み</u>、それを司会を中心に発表し合い、記録がまとめる。</p> <p>2 この交通状況から予測される危険を<u>各自が個人用ワークシートに書き込み</u>、それを司会を中心に発表し合い記録がまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・司会の積極的な進行を促す。 ・ワークシートを活用させる。 ・どのような意見も受け入れて、楽しく意見交換ができる雰囲気となるように配慮する。 ・読みの鋭い意見に注目させる。 <div style="text-align: center;">  <p>(前景図)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・前景図の中で気付かないところがある場合は、気付くような発問も効果的である。 ・潜在的な危険も予測させる。(自他の心理状況も読み取らせる。) 「うっかり」「ぼんやり」「あせり」「安全との思いこみや勘違い」 ・どのような発表も尊重する。

		<p>3 最も起こりやすく重大な危険を絞り込む (場面分析その2)</p> <p>4 危険回避方法の検討と最適回避方法の選定 (仮説設定)</p>	<p>3 2で予測した危険の中で、最も起こりやすく重大な危険と思われるものを1位に、他の危険については3位程度まで、司会を中心に話し合っ て選び出し、<u>記録がその順位をワークシートに書き込む</u> 各自でもメモを取る。 また、最も重大な危険を1つに絞る過程では、お互いにその理由についても話し合い、理解し合う。</p> <p>4 3で1位とした危険について、その危険の回避方法について、司会を中心に話し合い、<u>記録がその方法をワークシートに書き込む</u> 各自でもメモを取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・複数ある危険について順位をつけさせるが、この話し合いの過程は分析・考察、話し合う力量が育成されるので、大切にする。 ・話し合いによっては複数の危険が同順位になっても良い。複数の危険が同時に発生したり次々と発生したりする場合があることも考えさせる。 ・解答の文言は、単純な「ルールを守る」「安全を確かめる」「一時停止をする」などのようなものでなく、交通状況に潜む危険や交通参加者の心理等、事故の要因になるとと思われる内容を具体的に綴るようにして述べ、「そうであるからこそ一時停止をして、安全確認をする」というような解答をさせる。 ・危険回避方法は複数になってもよい。
		<p><最適回避方法の中に含まれて欲しい内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分(自転車)は車が横断歩道の前で止まってくれると思いきまない。 ・自分(自転車)は信号が青だから横断歩道は安全と思いきまない。 ・トラックの運転手が自転車の存在に気付いていないかもしれない。 ・右折しようとしている自動車の運転手は左折しようとしているトラックに気をとられ、自転車の存在に気付いていないかもしれない。 ・横断歩道進入前に速度を落とし、右左折する車の状況をよく見て、自動車をやり過ごしてから横断を開始する。 ・相手が気付いていると思いきんで、自分が優先と考えない。 		 <p>参考資料</p>
		<p>5 各班のまとめの発表と行動目標の明確化</p>	<p>5 <u>各班の記録がまとめを発表</u>し、質疑を通じて、その内容の理解を深め、安全な行動を学ぶ。また、危険回避方法についても再確認し、今後、実践できるように、安全な行動目標を明確にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表内容について質疑応答をさせる。この過程で事故原因を検証し、回避方法の有効性を確かめさせる。 ・発表内容の重要な部分にはコメントをし、実践化につながるよう働きかける。
<p>まとめ</p>	<p>5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事故になった場合の俯瞰図(別紙)を示し、安全走行についての意識を高め、安全行動を決意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・信号のある交通量の多い交差点の危険性と危険予測の大切さを理解し、事故防止に努めるため、具体的な安全行動の実践化・習慣化を決意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・こうした場面での危険予測が特に重要であることを強調する。

その他参考事項

- (1) ごく身近に危険があることに気付かせる。
- (2) 自転車も車両であり常に事故は起こる危険性があることを理解させる。
- (3) 危険予測や他人への思いやりがいかにか事故を防げるかを理解させる。
- (4) 今まで、びっくりした経験などを生徒から引き出し、学習を深める。

(個人用 ワークシート)

平成 年 月 日 ()

() 年 () 組 () 番 氏名 ()

学習段階	学 習 項 目	自分の意見	
第1段階	・交通状況の読み取り 「この場面には何が見えますか」 「見えない所には何があると思いますか」 「よく観察して書きましょう」	①	
		②	
		③	
第2段階	・危険の予測 「この場面では次にどのような危険が起きると思いますか」 「その理由についても考えましょう」		予想される危険 理 由
		①	
		②	
		③	
第3段階	・最も起こりやすく、重大な危険の選定	第2段階で記入した危険の中から選び、グループで相談して、上位1位～3位までを決め、簡単にメモしておきましょう。	
		①	
		②	
		③	
第4段階	・危険回避方法の検討と最適回避方法の選定 「1位とした危険を回避するにはどうしたらよいですか」		
第5段階	・安全行動の実践化（行動目標を決める） 「どうしたら安全な行動が取れますか。今後の行動目標を決め、実践しましょう」	①	
		②	
		③	

題 材	
-----	--

グループ名	司 会	記 録	メ ン バ ー
年 組 班			

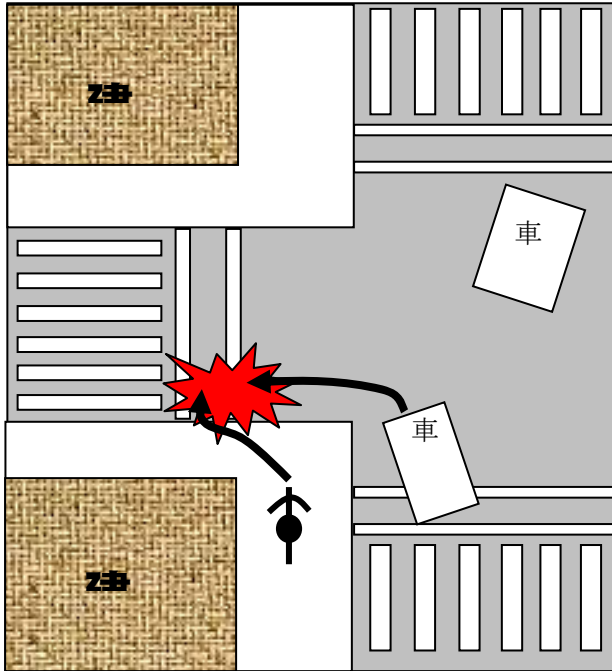
学習段階	学 習 項 目	解 答 ・ 意 見 ・ 考 察 ・ 感 想 等		
第 1 段階	・交通状況の読み取り 「この場面には何が見えますか」 「見えない所には何があると思いますか」 「よく観察して発表しましょう」	①		
		②		
		③		
		④		
		⑤		
		⑥		
		⑦		
第 2 段階	・危険の予測 「この場面では次にどのような危険が起きると思いますか」 「その理由についても話し合いましょう」	順位	予想される危険	理 由
			①	
			②	
			③	
			④	
	⑤			
第 3 段階	・最も起こりやすく、重大な危険の選定	第 2 段階で記入した危険の中から選び、上位 1 位～3 位まで左側の枠の中に順位をつけてください。		
第 4 段階	・危険回避方法の検討と最適回避方法の選定 「1 位とした危険を回避するにはどうしたらよいでしょうか」 「いくつかある回避方法の中で、最も適切と思う回避方法はどれでしょうか。話し合い、その番号に◎印しましょう」	①		
		②		
		③		
		④		
		⑤		
		⑥		相手から自分はどう見えたのか、自分の存在をどう相手に伝えればよいかについても考えてみましょう
第 5 段階	・安全行動の実践化 (行動目標を決める) 「どうしたら安全な行動をとれるか意見を出し合い、実践しましょう」	①		
		②		
		③		

(別紙)

事故にあった場合の俯瞰図 (3つのケース)

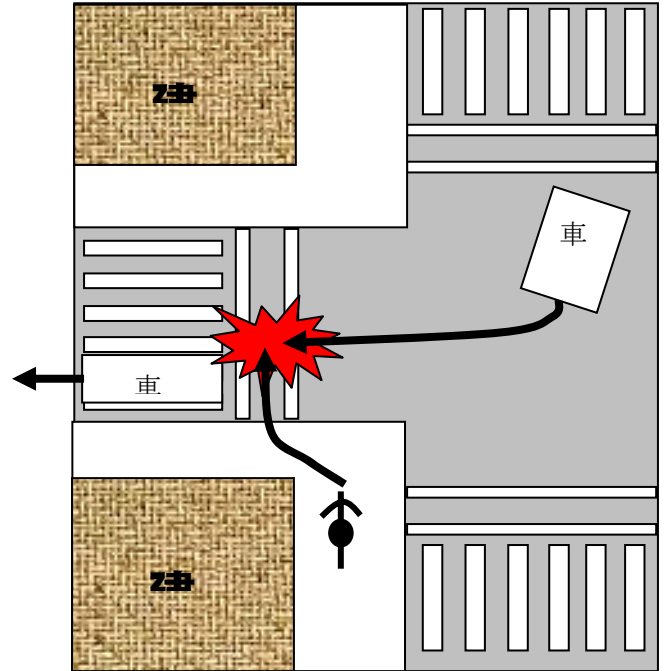
ケース①

左折車の巻き込み



ケース②

左折車をやり過ごした後の右折車との衝突



ケース③

左折車が自分を待ってくれた後の右折車との衝突

